



©Shoji Ueda Office

あの時代の Horizont  
植田正治のファッション写真  
Shoji Ueda Photo Exhibition

展覧会名 : あの時代 (とき) の Horizont  
植田正治のファッション写真  
Shoji Ueda Photo Exhibition  
会場 : アツコバルー arts drinks talk  
〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-29-1 クロスロードビル 5F  
TEL : 03-6427-8048 FAX : 03-6427-8886  
<http://www.atsukobarouh.com> \*トーク情報は随時ウェブに掲載されます。  
期間 : 2016年4月16日(土) ~ 5月22日(日) 火曜日定休  
営業時間 : 14:00~21:00 (水曜日~土曜日)  
11:00~18:00 (日曜日&月曜日)  
入場料 : 500円 (ワンドリンク付)  
企画協力 : 植田正治事務所、五味彬、コンタクト

## 開催趣旨：

「生涯、アマチュア写真家」を自称していた植田正治が初めてファッション写真を手がけたのは1983年、植田が70歳を迎えた年であった。それまでのファッション写真の枠組みを自由に飛び越えた作品は大きな反響をもって迎えられ、新たに植田正治の名を世に知らしめる契機となった。すでに植田正治を知るものにとっても、生まれ故郷の鳥取にとどまり、戦前からアマチュアリズムを貫いていた植田正治が、商業写真、しかもファッション写真を撮影したことに対する驚きは相当なものだった。

ただひたすらに「写真する喜び」を追い求めることで満足していた植田正治を新たな世界へ導いたのは、当時、アートディレクターとして活躍していた次男の充であった。この年の3月、最愛の妻を亡くし、写真を撮る気力さえ喪失していた父の姿を見かねた充が思いついた“荒療治”、それがデザイナー菊地武夫のブランド TAKEO KIKUCHI のカタログ撮影だった。自らのホームグラウンドとも言える砂丘で、モデルたちを自由に演出することが許された撮影で生来の実験精神と遊び心を取り戻した植田は、まったく新しいファッション写真の世界を創造することになった。それは、期せずしてすでに70歳になっていた植田正治の写真家としての新たな転機にもなる。もともと新しもの好きでハイカラ趣味だった植田正治とファッション写真との相性は抜群だった。その後も、充の手引きにより、多くのファッション写真を手がけた植田正治は、まさに水を得た魚のように次々と名作を生み出していった。後年、「砂丘モード」として知られるようになるこれら一連の作品群は、若い世代や海外にも大きくアピールし、植田の名前を次世代に伝えていく上で重要な役割を果たすことになった。時代と運命を共にする宿命であるはずのファッションは、植田正治の作品の中では色あせるどころか、時代を経てさらに輝きを増し続けている。それは、まさに植田正治が生み出したあらゆる作品にも共通して言えることだ。

本展では、80年代に手がけたファッション写真を中心に植田正治の作品世界を立体的に展示することで、その世界観を追体験する。また「80年代」をキーワードにアート、ファッション、グラフィックなど、バブル経済を背景に成熟の頂点を迎えた時代の証言者たちを迎えたトークセッションの開催も予定されている。

## Profile 植田正治 (Shoji Ueda)

1913年鳥取県生まれ。1930年代から写真雑誌への投稿などで頭角を現し、戦後、独創的な家族写真や鳥取砂丘での演出写真が注目される。1950年代はじめリアリズム運動などで、演出写真は中断するが、1971年の写真集「童暦」の刊行を機に、国内外で高く評価される。1972年に初めてヨーロッパを訪れ、1974年写真集「音のない記憶」を刊行。1978年、87年アルル国際写真フェスティバルに招待される。植田の作品は海外、特にヨーロッパでの評価が高く、1980年以降、展覧会、雑誌などで広く紹介される。1966年にはフランス芸術文化勲章を受章。2000年逝去（享年87歳）。

### <本件に関するお問い合わせ>

株式会社CONTACT 担当：佐藤正子

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-59-8-503

TEL：03-3405-5081 FAX：03-3405-5082

E-Mail [info.contact.tokyo@gmail.com](mailto:info.contact.tokyo@gmail.com) U R L <http://www.contact-tokyo.com>